

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	GrabityLiVE		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 1日		令和7年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14人	(回答者数) 9人
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 1日		令和7年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが安心して通所でき、事業所の支援全体に対する満足度が高い。	子どもが落ち着いて過ごせるよう、活動の流れや空間の使い方を工夫し、安心感を持って過ごせる環境づくりを行っている。 また、日々の支援において子どもの様子を丁寧に把握し、無理のない関わりを心がけている。	今後も、子どもが安心して通所できる環境を維持しながら、活動内容や関わり方の幅を広げていく。 子どもの成長段階に応じた支援の工夫を重ね、より充実した放課後の時間を提供していく。
2	支援計画に基づいた支援や日常の関わりについて、保護者から一定の理解を得られている。	放課後等デイサービス計画の内容をもとに、支援の方向性を職員間で共有し、日々の支援に反映している。 また、送迎時や連絡手段を活用し、支援内容や子どもの様子を保護者へ伝えるよう努めている。	今後は、支援計画と実際の活動とのつながりをより分かりやすく整理し、保護者への説明の充実を図っていく。 支援の意図や成果が伝わりやすい形での情報共有を継続していく。
3	職員による日常的な声かけや相談対応が行われており、安心して相談できる体制が整っている。	保護者や子どもからの相談に対し、日常的に声をかけやすい雰囲気づくりを意識している。 職員間でも情報共有を行い、共通理解を持って対応できるよう努めている。	今後も、相談しやすい関係性を大切にしながら、対応の質の向上を図っていく。 必要に応じて面談等の機会を活用し、より丁寧な支援につなげていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所外での交流や地域との関わりが十分に確保できていない。	子どもの安全面や特性への配慮を優先し、事業所内での活動を中心に支援を行ってきたことが要因と考えている。 外部活動を実施するための体制や準備が十分に整えられていなかった。	今後は、安全面に十分配慮したうえで、地域資源や近隣施設を活用した活動を段階的に検討していく。 子どもが地域と関わる経験を持てるよう、無理のない形で取り組みを進めていく。
2	保護者向けの研修や家族支援に関する取り組みが十分に行えていない。	日常的な個別対応を重視する中で、研修やプログラムとして体系的に実施する余裕がなかった。 実施方法や内容についての検討が後回しになっていたことも要因と捉えている。	今後は、資料配布や短時間で参加できる形など、保護者の負担に配慮した方法を検討していく。 家庭での関わりに役立つ情報提供を中心に、段階的な実施を目指していく。
3	安全管理や防災、訓練等の取り組みについて、保護者への周知が十分とは言えない。	必要な訓練や対応は行っているものの、その内容や目的を保護者へ整理して伝える機会が限られていた。 日常支援を優先する中で、情報発信の工夫が不足していたと考えている。	今後は、避難訓練や安全対策の実施状況について、連絡ツールや書面等を活用し分かりやすく伝えていく。 保護者が安心して利用できるよう、情報共有の機会を増やしていく。